

# SINAPIS

社会活動センター・シナピスは平和を実現する使命に向けて生きる人びとを応援します

## 月刊シナピスニュースレター

年間テーマ ～あきらめない 平和への道をともに～

Vol.  
103

2024. 12



2023 年末、ベツレヘムの福音ルーテル・クリスマス教会に置かれた「がれきの中の幼子」

\* 出典不明ですが、戦争で苦しむ人々とともに祈るため、ここに掲載させていただきました。

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス(からし種)です。  
イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、  
愛し合うように願って平和の種をまき、  
やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

カトリック大阪高松大司教区  
社会活動センター・シナピス

TEL/06-6942-1784 FAX/06-6920-2203  
Email/sinapis@ostk.catholic.jp  
ホームページ/<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

# 巻頭言

## クリスマスとは

尼崎教会主任司祭 ジョヴァンニ・デリア

20年前、イタリアのある教会で、ユニークな馬小屋を見かけました。



この馬小屋は通常の洞窟や山をモチーフにしたものではなく、キッチンテーマにしていました。食器棚や台所のテーブル、椅子やエプロンに囲まれ、そのテーブルの上に幼きイエス・キリスト、マリア様、ヨセフ様が置かれていました。

その教会の神父様はこう話されました。

「神の子は王宮でも神殿でもなく、何も持たずに、ただ人として生まれました。神の子

はこの世の裏口から歴史に入ることを選び、あのキッチンのように、日常生活の場を選んだのです。イエス・キリストはこうして地上のあらゆる場所をご自身の居場所とされました。」

つまり、マタイ福音にあるように、イエス・キリストはどこでも、いつでも私たちと共におられる神です。インマヌエルとは、まさにこのことを意味しています。神様を探すなら、教会ではなく、日常生活の中でこそ探すべきなのです。

もう一つは、馬小屋に現れる不思議な人物である羊飼についてです。

あの時代、羊飼いは社会的に低い位置にいました。現代で言えば、町の片隅でぎりぎりの生活を送る庶民のような存在です。

時には犯罪に手を染め、裕福な人々からは見下され、期待されていない人々でした。それにもかかわらず、神の子を見に行くように招かれました。なぜなら、神様はすべての人にチャンスを与えたいと願っているからです。

神様にとって、見捨てられた存在などありません。神様にとって不可能なことはありません。どんな人でも素晴らしいことができるのです。

例えば、1914年12月24日、第一次世界大戦中、ドイツとイギリスの兵士たちの間で自発的な休戦が生まれました。最前線で対峙していた兵士たちは、共にクリスマスを祝ったのです。これは奇跡だとされていますが、誰にでもチャンスが与えられれば、平和を選ぶものです。クリスマスとは、そのチャンスを信じることです。

クリスマスとは、希望そのものです。戦争は避けられない出来事ではなく、解決すべき問題としてとらえられるべきです。それこそがクリスマスの意味です。

# ライフスタイルの転換から世界平和を

『見よ、それはきわめてよかった』出版記念シンポジウム（2024年9月14日）で活動紹介をされた池永重彦さんは、玉造教会の信徒です。仕事の傍ら、掃除で社会のお役に立ちたいと、認定NPO法人「日本を美しくする会」などで活動しています。

以下、池永さんからいただいた原稿を、シナピス事務局で要約したものをお届けします。

『見よ、それはきわめてよかった』を読んで、教皇フランシスコ様が未来に対して、「ライフスタイルの転換」という大きな方向をお示くださっていることに、大変共感し、感動しています。

ライフスタイルの転換には、きっかけが必要だと思いますが、それには、「感動」や「憤（怒り）」の感情が大切で、そこにどう働きかけるかがポイントではないかと思います。私たちが行っている「掃除」を通じて、感動が人を変える、社会を変える、それが「ライフスタイルの転換」に繋がるのではないかと気づきました。

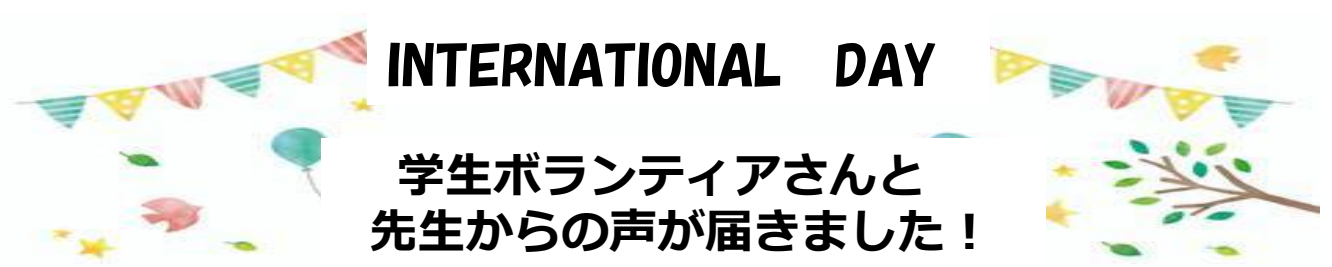
活動では、「掃除を学ぶのではなく、掃除に学ぶ」をモットーに、特に大切にしているトイレ掃除では、徹底して磨くことで、自分の心の汚れが取れていくような感覚になります。このような掃除によって、いわゆる荒れた学校の立て直しをたくさんしてきました。あたかも対立したように見える関係でも、掃除を通して、関係がつくられ、対話が始まることを経験しました。

街頭清掃では、見えないところを徹底的に掃除します。グレイチングという道路の雨水を落とす場所には、タバコやたくさんのゴミが落とされ、それは、処理されることなく、そのまま海に行きます。道路にはいつくばって、グレイチングの中をピカピカにする、その1回目が大切です。1回目には勇気とエネルギーがいらします。1回目ができれば、2回目はできます。私たちは、このことを、「ひとつ拾えば、ひとつだけきれいになる」と言い、この考え方を大切にしています。

鹿児島県に甕（こしき）島という離島があります。その海岸は、流木だけでなく、漁業ゴミ、大型のプラスチック（ほとんどが産業廃棄物）でおおわれ、それらが3メートルぐらいの地層になっています。プラスチックは波や岩で洗われてマイクロプラスチックとなり、それを魚が食べ、人間が食べます。

このゴミは、島の人たちが出したゴミではなく、大量生産・大量消費・大量廃棄のあげく、遠く外国から流れ着いたゴミです。自分が出したゴミではないけれど、誰かが拾わなければいけない。これは、国境を超えて、世界の国々の共通課題であり、この問題を解決することが共通善だと思います。日本は海洋国家ですから、この様な取り組みでも世界平和に貢献できるのではないのでしょうか。

ひとりの百歩より、百人の一步です。



# INTERNATIONAL DAY

## 学生ボランティアさんと 先生からの声が届きました！

今回の International Day には、大阪星光学院高等学校、ヴェリタス城星学園高等学校、平安女学院大学から多くの学生ボランティアが参加し、出店のお手伝い（シナピス工房、ワンコインマッサージ、子ども広場）や会場整理、ごみ処理、ステージの裏方、さらには会場撤収の力仕事など、さまざまな場所でイベントを支えてくれました。終了後に学生ボランティアたちと、彼らにずっと付き添ってくださった先生たちに、参加しての感想を聞いてみました。

### 【シナピス工房のお店】

- ・とても楽しめました。思っていた以上に自由に動けたので良かったです。  
ちゃんとお手伝いできたのか少し不安ではありますが、また参加したいと思いました。  
ありがとうございました。
- ・初めてのボランティア参加で、緊張もありましたが、楽しく過ごせました。  
お店の方々も丁寧に教えてくださり、安心してお手伝いできました。
- ・貴重な体験ができて、とても楽しかったです♪ またの機会 お願いします♥
- ・異文化の空気に触れることで、生徒にとっても良い学びとなりました。ありがとうございました。  
またよろしくお願いします。

### 【会場整理・ゴミ収集】

- ・本日は非常に良い経験をさせていただきありがとうございました。あんなにもたくさんの人々が来られ、また皆さんのとても生き生きとしていた表情を見ることができたのが印象深かったです。  
ウチの生徒たちもいい集まりに参加できたことを喜んでいました。  
また、生徒たちはまだまだ動けますので、もっと仕事を振っていただいて構いません。  
販売なども手伝いますので、次回ご考慮お願いします。  
来年も参加予定です。ありがとうございました。
- ・様々な国の外国人の方が一体となって、皆盛り上がっていたことがとても印象的でした。  
まさか、難民だとは思いませんでした。ぜひ、次回も参加したいです。
- ・日本には思ったよりたくさんの外国の人がいるんだな、と感じました。皆さんとても優しく、こういったコミュニケーションの場がとても嬉しいです。  
仕事についても、とてもやりがいがあり、来場者さんのほとんどがゴミの分別に関心を持たれていたのも、とてもやりがいがあり、仕事が楽に進みました。  
また、友人と共にできたというのもあり、ずっと楽しかったです。来年もよろしくお願いします！

- ・とても楽しくて、貴重な経験ができたと思います。また参加したいです。
- ・全体として、活気に満ち溢れていて、こちら側も全力で楽しめました。  
また、普段食べることのできない料理などがたくさんあって、本当にいい経験になりました。
- ・様々な国の方や色々な国の屋台があって、多様性に富んでいて、世界の広さを感じた。

### 【ワンコインマッサージ・会場整理】

- ・今日は村木さんのお手伝いと会場整理を担当させていただきました。僕はあまり英語が得意ではないので、外国人の方とコミュニケーションを取るのが難しいのではと思い、少し尻込みをしていましたが、意外とコミュニケーションが取れて安心しました。  
また、自由に動くことができる時間には、様々な屋台の外国の料理を食べることができて、とても楽しかったです。  
そして、最後の片付けでは、終わった後に「とても助かった」と言ってもらい、役に立てたと思うと、とても嬉しかったです。  
今、高2なので来年は来ることができないかもしれませんが、また来てみたいと思いました。  
今日はありがとうございました。
- ・来年も行きたいと思えるくらい楽しかった。

### 【バックステージ、ゴミ分別】

- ・貴重な経験をさせていただいたことに感謝しております。普段生活している中で、海外の方との交流はなかなかできることではないので、緊張もしましたが、何とかやり遂げることができて良かったです。僕たちの学年は、おそらく来年以降は、参加できませんので、後輩たちが参加した際は、またよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。
- ・バックステージでは、お力になれたか分かりませんが、やりがいがあったお仕事をさせていただいたことを感謝しております。生徒たちも楽しかったと話をしていました。  
ゴミ分別では、会場にお越しの皆さんはきちんと分別してくれていました。ただ、最終的にコンテナに入るならば、分別を簡素化できるかもしれないと感じました。  
また、袋ごとゴミを渡してきた人たちによるガスボンベの混入が3回あり、危ないと感じました。ガスボンベの持ち帰りを各団体へ徹底させることが必要かと思います。混入が複数団体にわたってあったことから、逆にこちらが積極的に回収をしてしまうことも考える必要もあるのかもしれません。また来年もよろしく願いいたします。



参加者とともに踊りの輪の中に入る



会場撤収作業中

## 特集 モザンビークを知る取り組み

### 2024年の一度しかない夏

武庫之荘教会 川端 結希子



武庫之荘教会は今年の4月から、主任司祭・山口神父様(園田教会兼任・園田教会居住)と、モザンビークから来られ、当時はまだ来日から2年に満たないティアゴ神父様(通称チャゴ神父様と私達は呼んでいます)の二人体制となり、この様に少し異例な形での本年度のスタートでした。

チャゴ神父様が武庫之荘教会に来られる前から、私には一つのアイデアがありました。8月には平和旬間がやって来る、その事でモザンビークという日本から距離的にも、馴染み的にも遠く、それでもこんな極東・日本に来てくださるチャゴ神父様にモザンビークをテーマにした内容でショートフィルムを作成して平和について指導していただけないかと。そしてもう一つの思いは、当時はまだ日本語学校に通われており、10月の卒業に向けて勉強を一生懸命にされてるとの事でしたので、チャゴ神父様がこれから日本で、そして私達・武庫之荘教会の信徒と絆が深められ、司牧活動するにあたり、自信に繋がる物になればとの思いで、お会いして2回目の時に開口一番、お願いをしました。

チャゴ神父様は一瞬、考えておられました、快諾してくださいました。この時はまだ4月でしたので、平和旬間の8月までに時間はまだあるため、少しずつ暖めて前に進め、前に進んで暖めて…を繰り返し、二人三脚で進めていきました。

この時に、ショートフィルムの内容を少し話してくださいました。「モザンビーク北部の県では、一部の過激派グループによる残忍なやり方、それを身近に感じて来られた話、そしてその事ではやはりトラウマがあります」と。

普段のチャゴ神父様はとても明るく、お歌も大好きでとてもお上手で、ミサも95%位は歌ミサでとても熱量でミサを捧げてくださっています。



その様な強いパッションの心をお持ちでもトラウマになってしまう出来事、思い、今の日本にいと、とても、とても想像するだけでも、<sup>おもんばか</sup>慮れます。

毎年やって来る平和旬間。けれど、ただのイベントで終わらせたくはありません。私達一人一人に何が出来るか、もちろん、「今すぐにガザに行つて」や「アフガニスタンに行つて」は出来ないけれど、間接的でも、神様からの贈り物の本来は美しく平和な地球をここまで汚し、汚した私達大人が、元の姿に戻す働きをしなければ。

ゴミを出さない減らす努力を、なるべく自然由来の物を使う、プラスチックの物を減らしていく等、今すぐ誰にでも簡単に出来る、とても間接的ですが、これらの事で、人の心が優しくなり生命を大事にする、争いの心を無くし平和への道に進み、そして私も含め、そこからもう一歩踏み出して、個々の出来る平和への道の歩みが出来ればと、切に思います。

下記の文章はティアゴ神父からいただいたものを日本語にしたものです。

『男性を殺害し、女性に暴力を振るい、少女を誘拐する。ムアナサ、アムリエさんの現状は、モザンビークの北部に住む他の多くのモザンビーク人と同じだが、異常である。暴力者たちは、私達・女性7名、男性3名を見つけて、女性に暴力を振るい、一人の男性を5m離れた茂みに連れて行き、頭を切断して殺害しました。それから、もう一人の男性も同じ事をされました。

そして、少女を誘拐して行きました。私の孫でした。連れていかれて、未だに戻って来ていない私の子どもや孫のことを考えると、睡眠や食事もできません。

現在、モザンビークではイスラムの過激派グループから逃げたいけど、逃げる方法が無く、取り残されている市民が大量にいます。

アシズサ・ファルマさんは、妊娠9ヵ月でありながら、襲撃されていた自宅から深夜に避難することになりました。避難の途中で陣痛を感じて、出産しました。赤ちゃんの名前はアウバと呼びます。この名前はマクア語で「苦しみ」という意味です。6人目の息子です。

家族はペンバ市に避難しました。ここは天然ガスの採取や宝石の採掘が盛んです。

ここに、50万人以上の難民が逃げて来ました。

飢餓は常に付き物です。動物と同じ生活を強いられている人もいます。動物は地下に穴を掘って睡眠出来ますが、私達はコンクリートの上で3~4ヵ月寝ています。病気になる人もいます。国際連合は、モザンビークで350万人以上の住民が飢餓の危険にあると推定しています。

また、2017年から軍事攻撃を始めたイスラムの過激派組織を非難し、無法地帯を是正しないモザンビーク政府も非難しています。

勿論、ティアゴ神父様はイスラム教徒を非難していません。

一部の過激派グループに対して憤りを感じ、そして、すべてが一つになり、平和になることを思い、一生懸命にお祈りをされています。



ティアゴ神父様がモザンビーク北部の県で司牧活動をされていた時に、カトリックの司教様とイスラム教徒のリーダーの方々とのミーティングがあり、ティアゴ神父様も出席されて、一つになり平和への思いも語られているシーンもミニシアターの中に映し出されていました。

日本にいと、モザンビークの現状をなかなか知る機会がないので、とても意味ある時間を持つことができたことに、感謝の気持ちでいっぱいでした。

### 「合理的配慮ってなに？」 その3

よしかわ やすお  
障がい者委員 吉川 康夫

それは、障害を持つ人が、障害を持たない人と同等の機会を得るために、事業者が提供しなければならない対策や設備のことです。

これらの具体的な対策や設備の提供は、2024年今年4月1日から努力義務ではなく、義務とされています。

(参考) 「合理的配慮」の英語は“Reasonable Accommodation”です。

「納得できるお互いの調整」と訳すと分かり易いです。「無理をしなくてよいのなら、やらなくてもよい」ということにはならないのです。

(シナピス 10月号の補足説明) ②

#### 内閣府のパンフレットから

- 「合理的配慮」には対話が重要です！

**事例：**「合理的配慮」を求めた当事者が、あたかもクレマーのように扱われてしまうケースを耳にします。詳しく聞いてみると、そこに小さな誤解がたくさんあることが分かりました。

例えば、「聖堂内にあるヒアリングループ（磁気ループ）や、専用レシーバーで聞く赤外線やFMの補聴装置に不具合があるのでは」、という訴えに対して「問題はない」という回答です。多くの人が気にならない小さな雑音が、難聴者には大きな妨げになっていることも多いのです。せっかく良い設備を設置しても、長年使っているとほこりが溜まり雑音が発生する様になりました。⇒話し合いを重ね、解決に向かっています。

**考察：**「対話」とは、何でしょうか。聴くことが大切！

当事者研究をされている熊谷晋一郎氏は「**双方向の情報保障**」の大切さを訴えられています。自分の話ばかりしゃべらないで個人的見解は控え、まず当事者の話を聞いてください。障害を持つ人に対して「わがままだ」、「常識を知らない」、「ルールを守らない」という言葉を耳にすることがあります。当事者の多くは、知らない、知らされていないということがあります。疑問に思ったことを聞く。質問し質問に答える。分からないことは置いておかないで、尋ねる。

互いが誠意をもってやり取りすることが“シノダリティー”でしょう。

**実行：**「対話」とは、何でしょうか。まず、声をあげよう！

法律では、「障害のある人から申出があった場合に・・・」とあります。「合理的配慮の提供」を求めることをためらわずに声を上げましょう。長い間、何度も何度も声を上げて聞き入れてもらえなかった辛い経験のために、我慢することが良いと思っているかもしれません。

しかし、イエスさんが言われるように、一緒に“戸を叩き”つづけましょう。

☆内閣府のリーフレットをダウンロードしたい方はこちら

[https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/sabekai\\_leaflet-r05.html](https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/sabekai_leaflet-r05.html)



内閣府政策統括官（共生・共助担当）付障害者施策担当



# 東アジアで戦争を呼ぶのは誰だ!! (1)

大森 雄二

10月5日の集会会場には、「東アジアで戦争を呼ぶのは誰だ!!」と標記のタイトルを墨で記した大きな横断幕が掲げてありました。

「日米の『対中国戦争態勢』とは何か―東アジアでの戦争を止めるために―」（主催：南京大虐殺60周年・大阪実行委員会）と題された集会で、愛媛県今治市在住の講師、高井弘之さん（ノーモア沖縄戦 えひめの会）の語りは明快そのものでした。

南西諸島から沖縄・奄美まで、対艦ミサイル部隊と弾薬庫を核とする自衛隊基地の建設が進んだ流れは、今や、九州全域（大分：湯布院、宮崎：えびの市、鹿児島：さつま町、熊本：健軍）から西日本まで拡大しつつあるとのこと。

広島県呉市の海上自衛隊基地には、沖縄に部隊や物資を輸送する新部隊の設置が予定され、さらに、兵器の整備・生産機能を持つ大規模な軍事拠点の建設構想もあるそうです。

21年末に策定された「日米共同作戦計画」では、琉球弧（九州の南端から台湾に至るまでの島々の総称）を転戦しながら、中国軍を攻撃する作戦が明らかとなり、それに基づく戦闘訓練として、日米に、英・仏・蘭・独まで加えた合同演習を、毎年、規模を拡大しながら実施しているのが現実です。島々を転戦する意味は、中国軍の反撃を想定してのことで、住民を犠牲にする「捨て石」作戦であるのは明らかです。



それでは、中国は本当に台湾に武力侵攻するのか。高井さんの答えはノーです。1989年の天安門事件以降、国民の様々な不満・批判がありながら、統治の安定が保たれたのは、経済が発展し、「生活の豊かさ」を国民が実感できたから。輸出入に依存する経済のためには、「平和的な国際環境作り」が大切と、共産党自身が戦略目標として掲げている中、武力侵攻によって、その環境を壊して、自らを不安定化するとは思えないとのこと。

さらにもう一歩進んで、「台湾有事」が現実化したとして、それが「日本有事」につながるか。これに関しても高井さんはノーと答えます。台湾に近いから、これが理由にならないのは明らかです。では「台湾有事」の際、日本を攻撃して日米との戦争の道を中国が選択するか。台湾統一さえ危ぶまれる状況を中国自らが作り出すとは考え難いと答えます。

ではなぜ、最初に述べたような軍備の増強が必要なのか？そこにはアメリカの強い意志があると高井さんは考えます。経済・軍事面で台頭する中国を、世界における自らの支配的な地位を脅かす国としてアメリカは意識し、中国を封じ込め、弱体化させる対決路線へと舵を切ったわけです。(続く)

# シナピス事務局こぼれ話



ビスカルド篤子

## 広がるベトナム人ネットワーク

今年7月より、聖ビンセンシオ・ア・パウロの愛徳姉妹会のマリアランさんがシナピスの運営委員に加わりました。彼女は現在、釜ヶ崎を拠点に活動をしつつ、ベトナム人への司牧にも力を入れています。特に若者たちに向けて日本社会の現実を語り、学びあい、「誰も取り残さない社会」の実現のために、自分たちに何ができるのかを若者たちと一緒に考え、小さな行いを続けています。これからは大阪高松教区全体のベトナム人ネットワークづくりに力を注いでくれるでしょう。マリアランさん、どうぞよろしく！

## フィリピンコミュニティによる「子ども基金」へのチャリティーコンサート

いまアフガニスタンでは、全土を実効支配するタリバンが国際 NGO の入国を極端に制限しているため、貧困地域の人びとが飢えと寒さに苦しんでいます。シナピス子ども基金では、アフガニスタン現地の小さな支援グループを通して、子どもたちの越冬のために薪や小麦粉、油など送る運動をしています。この活動に加わってくれたのが関西在住のフィリピン人たちです。アフガニスタンの子どもたちを助けようと、12月8日に大阪でチャリティーコンサートを開くことにしました。クリスマスにちなんだポップミュージックやダンスなど、楽しい催し満載です。チケットは1枚500円で豪華賞品が当たる抽選券になっています。

**1等賞は2万円、2等賞は1万円、そしてそして！大賞は何とフィリピン往復航空券！！！！**

当日参加できなくても、抽選券で当たればあなたもフィリピンにいけるかも!! 詳しくは同封チラシをご覧ください。

抽選券はシナピス事務局でも販売しています。

アフガニスタンの子どもたちの越冬にぜひご協力をお願いします。



西カブールの子どもたち



救援物資を受け取る  
バーミヤンの子どもたち



西カブールの子どもたち



2023年12月、子ども基金より、カブールへ送った薪・小麦粉・油



## アフガニスタンの最貧地域の子どもたちを救おう

いま、アフガニスタンでは全土を支配するタリバンによる女性への迫害のせいで、特に貧しい母子家庭が飢えと寒さに晒されていると言います。タリバンは女性が学校へ行くことも仕事をすることも厳しく禁じ、若い女性を見れば容赦なく誘拐していきます。

働ける男性のいない家庭は物乞いをするしか生きるすべがありません。

そんな貧困地域のなかにも差別があり、特に働き手を失った最貧家庭は、寺院やボランティアの食糧配給にも並ばせてもらえないと言います。

シナピス子ども基金では2つのグループに「子どもたちへの越冬プロジェクト」を支援しています。

### ☆ J A S A (日本アフガニスタン支援の会) へ

J A S A は、現地西カブールの小学校の教師たちとつながっています。

教師たちは、西カブールでも特に貧しいダシティバルチという地域の貧困家庭に向けて、薪・小麦粉・油を配る活動をしています。

2023年、シナピスはJ A S A を通して40万円を送金しました。

この冬も第2次救援として同様の援助をします。



救援物資を受け取る  
バーミヤンの子どもたち

### ☆シナピス・マダールへ

シナピス・マダールは「シナピスお母さん」という意味のグループです。20年前からシナピスでつながっているアリさんが起こした運動です。

シナピス・マダールは、バーミヤンとヤカオランという地域の貧困地域をまわり、極貧家庭を探し出して現金を配る運動をしています。現金を配る理由は家庭によって必要な物が違うからです。

バーミヤンやヤカオランに行くには、タリバンの検問所をいくつも通らなければならず危険を伴い、道なき道を走るのので、四輪駆動車と現地の案内人が必要です。50の極貧家庭を助けるために100万円を送金しました。



バーミヤンの地元民に案内されながら奥地に向かうアリさん(右)

子ども基金で送ったお金が正しく使われているかどうかは、現地で受け取った領収書と、援助の様子のわかる写真や動画を見て評価します。

シナピスこぼれ話で紹介したフィリピンコミュニティのチャリティーコンサートの抽選券を買ってくださるもよし、シナピス子ども基金へ直接振り込んでくださるもよし、アフガニスタンの子どもたちが一人でも多く生き延びられるプロジェクトへのカンパをよろしくお願ひします。



羊の世話をするバーミヤンの少女たち

- 郵便振替 00960-7-61419  
加入者名 カトリック大阪高松大司教区  
代表役員 前田万葉
- 三井住友銀行 玉造支店 普通 9401958  
カトリック大阪高松大司教区 シナピス  
代表役員 前田万葉
- オンラインはこちら →→→



活動へのご支援ご協力を  
よろしくお願いたします。



電化製品、お米・乾麺・調味料、  
日持ちのする食料品、外国語の聖書のご寄付をお願いします

\*比較的新しい家電製品やミシンなど  
\*日本語の聖書は不要です



お電話をお待ちしています！！

☎06-6941-4999



### シナピスホーム (カフェ)

12月の予定

カフェ : 7日、14日

ランチ : 21日

★土曜日の13時頃～16時頃

★ランチは要予約

(電話 06-6942-1784)



HPはこちらから

<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

ニュースレター配布停止ご希望の方は  
シナピスまでお知らせください。

あとがき

今号に掲載した、International Day での学生ボランティアの感想を読んでいると、ほっとした気持ちになりました。ふだん関わることのない人たちとともに体を動かし汗を流すのは、とても貴重な体験だったことと思います。終盤では彼らもステージ前の踊りの輪のなかに加わって、満足そうな表情をしていました。

毎日たくさんの情報がメディアを通して、私たちの目や耳に飛び込んできます。頭の中が情報で溢れて「何でも知っているつもり」になりがちです。でも、たとえば難民申請中の人たちと出会い、時間をかけて関わりあってみると、相手のことを何もわかっていなかったことに気づきます。

教会という言葉は「エクレシア」というギリシア語の和訳だそうで、「誰かの呼びかけで集まった人たち」という意味があると聞きました。同じ場所に集まったら、そのうち知らない間でも挨拶をするようになるでしょう。やがて自分のことを話したり、一緒になにかを始めようかという話が出てくるかもしれません。そうやって、お互いに知りあい、さまざまな影響を与えあっていくなかで、協働の仕組みがつけられていくのだと思います。

教会はそんな出会いをつくり、関わりを深める場所であればと思います。(いたる)

## ▽▲▽ シナピスの主な活動 ▽▲▽

### ◆ 広報活動

- ・教皇メッセージ、司教団メッセージ等 社会活動の指針の伝達
- ・読者と教会内外の社会活動をつなぐ 機関誌としてシナピスニュースを発行

### ◆ 大阪高松教区・社会活動委員会との連携

### ◆ 学習会研修会の企画

### ◆ こども基金

世界・日本のこどもたちへの援助

### ◆ 日本カトリック司教協議会との連携

正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣

### ◆ 人権教育の講師を務めるなど教育機関への働きかけ

### ◆ 難民移住移動者支援

難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して

**難民移住移動者 相談ダイヤル**

☎ 06-6941-4999

## アクセス

〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-24-22

カトリック大阪高松大司教区事務局内



### ● 公共交通機関ご利用の場合

JR 森ノ宮駅より 約 1000m

地下鉄中央線森ノ宮 2 番出口より 約 800m

JR 玉造駅より 約 1000m

地下鉄長堀鶴見緑地線玉造 1 番出口より約 800m

### ● 車でお越しの場合

阪神高速 13 号東大阪線法円坂出口

法円坂交差点南へ上町を東へ

## 活動へのご支援ご協力をおねがいます

☐ 郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪高松大司教区

代表役員 前田万葉

☐ 三井住友銀行 玉造支店 普通 9401958

カトリック大阪高松大司教区 シナピス

代表役員 前田万葉

☐ オンラインはこちら →→→

